

茨城県笠間市

# 峯崎遺跡

—福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

社会福祉法人木犀会  
ティケイトレード株式会社  
埋蔵文化財事業部

茨城県笠間市

# 峯崎遺跡

—福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

社会福祉法人木犀会  
ティケイトレード株式会社  
埋蔵文化財事業部

## 例　言

- 1 本書は、社会福祉法人木犀会の福祉施設建設に伴う峯崎遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は笠間市教育委員会の指導の下、ティケイトレード株式会社が実施した。
- 3 遺跡の所在地・調査面積・発掘調査期間・整理調査期間は、以下の通りである。

所在地	茨城県笠間市寺崎字峯崎 158 外
調査面積	329 m <sup>2</sup>
発掘調査期間	平成 23 (2011) 年 2 月 1 日 ~ 2 月 25 日
整理調査期間	平成 23 (2011) 年 2 月 28 日 ~ 5 月 30 日
- 4 現地調査、整理調査および報告書の編集は、望月大輔が担当した。
- 5 現場での遺構写真撮影は望月が行なった。
- 6 遺物の写真撮影は山内和夫が行なった。
- 7 遺構図は、阿部正男が修正・トレスを行なった。
- 8 遺物実測・トレスは、西垣真子、佐野一絵、下田陽子が行なった。
- 9 奈良・平安時代の遺物観察は、奥富雅之（ティケイトレード株式会社）指導のもと、望月が行なった。
- 10 調査によって得られた資料は、笠間市教育委員会が保管・管理している。
- 11 調査組織は下記の通りである。

調査機関	ティケイトレード株式会社 埋蔵文化財事業部
代表取締役	荒川健司
調査担当者	望月大輔
主任技術者	阿部正男

発掘調査の参加者は、下記の通りである。（敬称略・五十音順）

青木 誠 浅野靖子 大山年明 小河原百合子 小瀬紹夫 小林哲生 小林良子 田口久美子  
富田恒勝 桃塚恵美子 林ゆうこ 水村知記 宮野忠行 山崎幸子 横田忠利

整理調査の参加者は、下記の通りである。（敬称略・五十音順）

岩田知子 大野節子 斎志村百合子 小山 充 佐野一絵 下田陽子 高野恒一 中島慶太  
中谷美穂 西垣真子 濱田優巳 林 雅博 松本寛之 山内和夫 山中敏彦 吉田淳子

## 凡 例

- 1 遺構番号は、遺構確認段階で任意に001番から付し、整理段階において遺構番号の末尾に遺構種別に基づいた略号を付し遺構名とした。
- 2 光波測距儀（トータルステーションシステム）によって取り上げた遺物は、遺構毎に通し番号を001番から付した。
- 3 本書において用いた略号は、以下の通りである。  
SI—住居跡 SK—土坑 SL—屋外炉 P—小穴 K—攪乱 BL—ブロック
- 4 調査区のグリッドは、世界測地系座標に準拠し、X=43920.000、Y=37925.000の交点を起点とした。
- 5 平面図は完掘状況を表し、必要に応じ上端・中端線などを記入している。
- 6 本書の図版の縮尺は、それぞれの図版に記したが、原則として遺構は1/40、遺物は1/2である。
- 7 遺構図版中のトーンの指示は、以下の通りである。



- 8 遺物図版中のトーンの指示は、以下の通りである。



- 9 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄編著日本色研事業株式会社）を使用した。
- 10 遺物観察表の項目、記載方法は『橋爪遺跡－道路改良工事に伴う遺跡の発掘調査報告書－』（ティケイトレード株式会社 2010）を参考にした。
- 11 遺物の観察表において、残存値は（ ）、推定値は< >で示した。

## 目 次

例言

凡例

目次

### 第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1

### 第2章 位置と環境

第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3

### 第3章 調査の概要

第1節 遺跡の概要	5
第2節 調査の方法	6
第3節 基本順序	7

### 第4章 調査の成果

#### 第1節 遺構と遺物

(1) 旧石器時代	8
(2) 繩文時代	8
(3) 平安時代	15
(4) 非抽出遺構・遺構外出土遺物	18
第2節 まとめ	20

抄録

写真図版

## 第1章 調査の経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

平成 22 年 9 月 14 日付けで社会福祉法人木犀会は、笠間市寺崎地内における「埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて」の照会を笠間市教育委員会に提出した。開発予定地は、周知の遺跡「峯崎遺跡」が所在することから、平成 22 年 9 月 16 日付けで試掘調査が必要である旨が回答された。試掘調査は、笠間市教育委員会が笠間市文化財保護審議会委員の能島清光氏に依頼して、平成 22 年 9 月 21・22 日に実施し、遺跡の所在が確認された。

社会福祉法人木犀会は茨城県教育委員会に対して、平成 22 年 10 月 1 日付けで文化財保護法第 93 条第 1 項の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要と決定し、平成 22 年 11 月 19 日付けで工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

これを受けて、社会福祉法人木犀会はティケイトレード株式会社に調査を依頼した。社会福祉法人木犀会・笠間市教育委員会・ティケイトレード株式会社は三者協定を締結し、試掘調査の結果に基づき、平成 22 年 12 月 27 日付けで文化財保護法第 92 条第 1 項の規定による発掘調査届出を茨城県教育委員会へ提出、茨城県埋蔵文化財指導員の川崎純徳氏、笠間市文化財保護審議会委員の能島清光氏を指導委員として平成 23 年 2 月 1 日から平成 23 年 2 月 25 日まで、発掘調査を実施した。

### 第2節 調査の経過

発掘調査は、平成 23（2011）年 2 月 1 日～平成 23（2011）年 2 月 25 日に実施した。調査地点は峯崎遺跡とされる遺物包蔵地であり、本調査の目的は福祉施設建設に伴う埋蔵文化財の記録保存である。

#### 現地調査

- ・平成 23 年 2 月 1 日～ 重機による表土掘削作業及び人力によるプラン確認作業を開始。
- ・2 月 3 日～ 表土掘削作業終了。遺構調査を開始。
- ・2 月 23 日～ 全景写真撮影。
- ・2 月 25 日～ 県による終了確認監査。現地調査完了。

#### 整理調査

- ・平成 23 年 2 月 28 日～ 遺物洗浄作業開始。
- ・3 月 1 日～ 遺構図面トレース作業開始。
- ・3 月 4 日～ 遺物洗浄作業終了。
- ・3 月 7 日～ 遺物接合・注記作業開始。
- ・3 月 10 日～ 遺物接合・注記作業終了。
- ・3 月 16 日～ 遺物実測・トレース作業開始。
- ・4 月 1 日～ 遺物実測・トレース作業終了。
- ・4 月 8 日～ 遺構トレース作業終了。
- ・5 月 31 日～ 報告書刊行。



第1図 竜崎遺跡位置図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

峯崎遺跡は、茨城県笠間市寺崎字峯崎 158 外に所在する。

笠間市は県中央に位置し、北は城里町と桶木原芳賀郡茂木町、東は水戸市と茨城町、南は石岡市と小美玉市、西は桜川市に接する。市域周辺には、八溝山系鶏足山塊の南部にある国見山や仏頂山などの山々が連なり、そのほぼ中央に笠間盆地を形成している。八溝山系の地質は、古生代の砂岩、粘板岩、チャートや第三紀の花崗岩などで構成されているが、盆地内の地質は第四紀の砂礫から成り、その上に闇東ロームが堆積している。また、盆地内には国見山付近から流れ出る潤沼川がほぼ中央を南流しており、そこに周囲の山々に水源を持つ小河川が合流し、潤沼川に注いでいる。

峯崎遺跡は、笠間盆地の北部、潤沼川を南に臨む寺崎台地上に立地する。本調査区は台地南縁にあたり、北西から南東に向かう緩傾斜地である。標高は 58.75 ~ 60.25m である。調査地の現況は畑地、雜種地である。

### 第2節 歴史的環境

ここでは、峯崎遺跡周辺の主な遺跡について概述する。

**旧石器時代** 峯崎遺跡周辺では、当該期の人間活動の痕跡を残すものは確認されていないが、笠間市内に目を向けると、本戸地区の石崎遺跡、木戸城跡において細石刃が出土している。また、上加賀田地区に所在する小組遺跡では 2000 点以上の剥片が出土し、当地での石器製作を類推させる資料として注目される。

**縄文時代** 笠間市内に早期から晩期までの遺跡が確認されている。木遺跡周辺においては、西田遺跡の調査が行なわれており、縄文時代中期から後期の遺構が検出されている。西田遺跡では、石窓とその製作に伴う削片類が多数出土している。

**弥生時代** 弥生時代に関しては、他の時代に比べると遺跡数は少なく、木戸地区の戦後遺跡や、後久保遺跡などが挙げられる。中でも後期後半に位置付けられる遺跡が多い。

**古墳時代** 古墳時代の遺跡は多く、本遺跡周辺には、北に高野古墳群、北西に寺崎原古墳群がある。本遺跡の南西に所在する箱田うら山古墳では、埴丘測量とトレンチ調査が行なわれ、周濠を伴う前方後円墳であることが確認されている。

**奈良・平安時代** 本遺跡をはじめ集落跡とされる遺跡が、飯田地区や右井地区などに認められる。石井遺跡群では、円面鏡の破片などが出土しており、当地における官衙の施設の存在が想定されている。

表1 峯崎遺跡周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	主な遺跡と時代	所在	遺跡名	主な遺跡と時代	
01	寺崎山古墳	古墳(古墳)	寺崎(寺崎)	23	高野古墳	高野(中世)
02	舟形城跡	城跡(平安)	舟形(寺崎)	24	金井古墳群	古墳(平安)
03	御前塚跡	古墳(縄文)	御前塚(寺崎)	25	木戸城跡	城跡(平安)
04	飯田城跡(台地部)	古墳(古墳)	飯田城跡(台地部)	26	伊勢神社跡	伊勢神社(縄文・弥生・古墳・奈良)
05	上大遺跡	古墳跡(縄文・弥生・平安)	上大(寺崎)	27	箱田うら山古墳	古墳(古墳)
06	白山遺跡	古墳跡(弥生)	白山(寺崎)	28	足立古墳群	古墳(縄文)
07	金久宝塚跡	古墳跡(縄文・弥生・平安)	金久宝塚(寺崎)	29	大須崎古墳	古墳(平安・平安)
08	寺崎原古墳群	古墳群(古墳)	寺崎原(寺崎)	30	大田田山古墳	古墳(平安)
09	越山遺跡	古墳跡(平安)	越山(寺崎)	31	鹿島古墳	古墳(平安)
10	所竹遺跡	古墳跡(縄文・弥生・平安)	所竹(寺崎)	32	大須崎古墳	古墳(縄文・平安)
11	馬酔古墳群	古墳群(古墳)	馬酔(寺崎)	33	石刀山古墳	古墳(縄文・弥生・古墳・奈良・平安)
12	鳥居川遺跡	古墳跡(縄文・古墳・奈良・平安)	鳥居川(寺崎)	34	佐久井古墳	古墳(平安)
13	千利遺跡	古墳跡(古墳・平安)	千利(寺崎)	35	大石古墳	古墳(平安)
14	猪養人村遺跡	古墳跡(縄文)	猪養人(寺崎)	36	寺崎城跡	堅城跡(平安)
15	森谷古跡	跡(平安)	森谷(寺崎)	37	曾我遺跡	堅城跡(平安)
16	後久保古跡	古墳跡(縄文・古墳・平安)	後久保(寺崎)	38	馬酔古墳	古墳(平安)
17	笠原古跡	古墳跡(縄文・古墳・平安)	笠原(寺崎)	39	川山古跡	古墳跡(縄文・平安・平安)
18	安房山古跡	古墳(中世)	安房山(寺崎)	40	利行塚跡	古墳跡(平安・古墳)
19	大井神社裏遺跡	古墳跡(古墳・後K・奈良・平安)	大井神社裏(寺崎)	41	上井跡	古墳跡(平安・奈良・平安)
20	大井塚跡	古墳跡(平安)	大井塚(寺崎)	42	元西跡	古墳跡(縄文・古墳)
21	大須崎(古井跡)	古井跡(古井)	大須崎(寺崎)	43	御内堀古跡	古墳跡(平安・平安)
22	人一神社遺跡	古墳跡(縄文・弥生・古墳・空井・平安)	人一神社(寺崎)			



第2図 奎嶋遺跡周辺の遺跡位置図

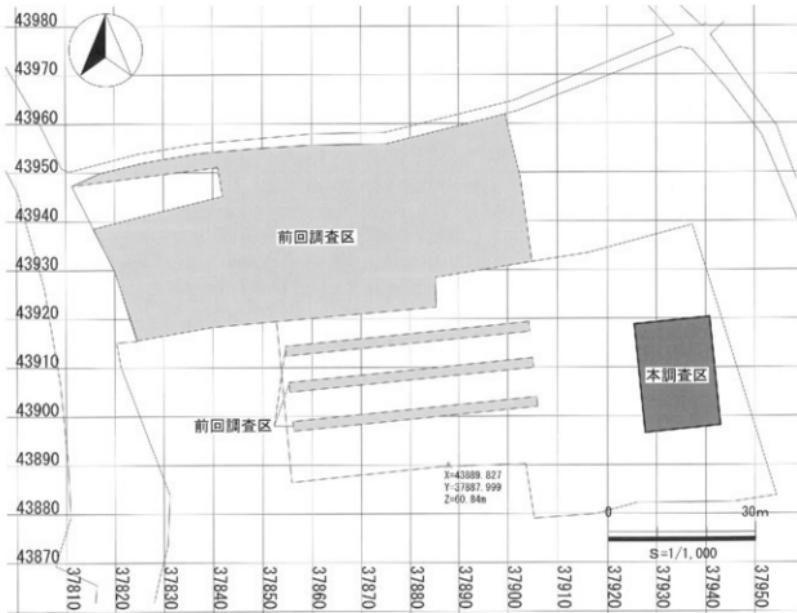
### 第3章 調査の概要

#### 第1節 遺跡の概要

今回の調査で、縄文時代の土坑 12 基、ピット 1 基、平安時代の住居 1 軒、屋外炉 1 基、時期不明の土坑 15 基、ピット 1 基の、総計 31 基の遺構を検出した。また、ハードローム層から石器が 1 点出土した。

縄文時代の土坑は、開口部の平面形がほぼ正円形で、断面形が半円形、または箱形を呈するものが主体である。土坑からは主に縄文時代後期前葉の土器が出土したが、小破片が多く、全体の器形が窺えない資料が大半である。石器は、剥片の出土が僅かに認められるのみであるが、当地において活発に用いられるチャートを石材としている。平安時代の住居、屋外炉からは土師器と須恵器が出土した。これらは、内面黒色処理が施される土師器や焼成不良の須恵器が主体であり、器面の調整手法などから 9 世紀代に位置付けられる。ただし、共に遺構の遺存状況は悪く、住居は床面、カマドおよび壁溝の一部を検出したのみである。各時代において、遺物の遺構間接合は認められなかった。

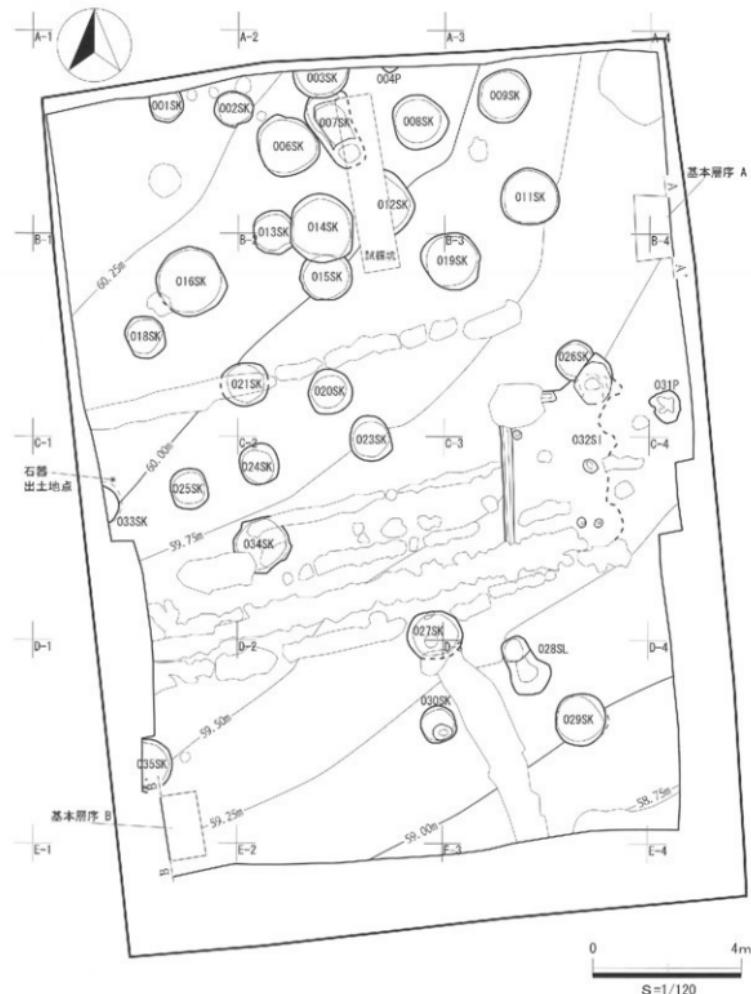
平成 2、3 年に、今回の調査区の西側において本調査（旧遺跡名：寺崎台地遺跡）が行なわれている（以下、前回調査）。主な調査成果として、縄文時代の住居 1 軒、円形周溝状遺構 1 基、奈良・平安時代の住居 9 軒、土坑 9 基の検出が報告されている。縄文時代の遺構からは、堀之内式に比定される土器が出土し、また、奈良・平安時代の住居跡からは、8 世紀後半～10 世紀前半に位置づけられる土師器と須恵器が出土している。これらの成果は、本調査区においてもほぼ同様に確認された。今回の調査成果と合わせ、本遺跡は旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代の複合遺跡と位置づけられる。



第3図 峯崎遺跡調査区位置図

## 第2節 調査の方法

試掘調査の成果から、施設建設部分に相当する 329 m<sup>2</sup>を調査区として設定した。グリッドは調査区北西部を起点に 5m 四方のグリッドを設定し、東西を西側から算用数字で 1 ~ 4、南北を北からアルファベットで A ~ E と付した（第 4 図）。



第 4 図 峰崎遺跡調査区全体図

調査区北東部から重機による表土掘削を行なった後、人力による精査によって遺構プラン確認を実施した。また、試掘調査の成果から、遺構確認面は後述する4層直上に設定した。遺構番号は、確認された遺構から任意に001番から番号を付した。遺構調査を進める過程において、開口部が狭小で掘削が困難なものに限り、断割り調査を行なった。出土遺物は基本的に遺構一括として取り上げ、必要に応じてトータルステーションシステムを用いた三次元記録を行なった。

遺構平面図の作成はトータルステーションシステムを使用した三次元計測により行なった。また、遺構断面図の作成は手作業で行ない、縮尺はS=1/20を基本として必要に応じてS=1/10とした。写真撮影記録には35mmのモノクロフィルム、カラーリバーサルフィルム、およびデジタルカメラを用いた。

### 第3節 基本層序

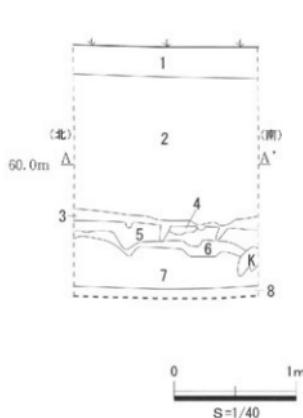
調査区東壁北部と西壁南部にトレンチを設定し(第4図)、基本土層の堆積状況を確認した(第5、6図)。

前回調査時において表土とされた耕作土が3層、その調査後の建築に伴う整地用の盛土が2層に相当すると考えられる。また、4~8層が関東ローム層にあたり、いわゆる鹿沼バミス層は7層に相当する。本調査区では、関東ローム層の直上に漸移層は認められず、ソフトローム層にあたる4層に至るまで後世の削平が及んでいる。

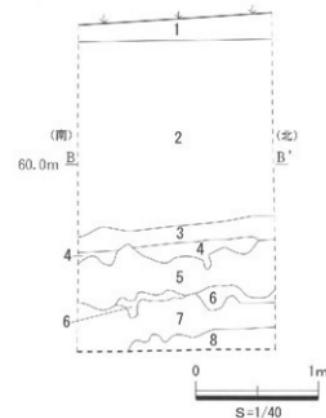
両記録地点において、5~8層は南へ緩やかに傾斜する堆積状況が認められる。ただし、B地点7層はA地点7層と異なり、包含される鹿沼バミスがブロック状を呈する。これは、調査区の南が台地縁辺の傾斜地となっていること、A地点に比べて6、8層との層理面が波状に起伏することから、傾斜地における再堆積によるものと考えられる。

#### 基本層序

- 1 表土
- 2 黒色土、ガラスなどを含む 現代の整地土
- 3 耕作土、黒色土、ローム層、小礫などを含む 現代の耕作土
- 4 黄褐色ローム、しまり・粘性やや強い、褐色スコリア微細含む ソフトローム
- 5 明黄色ローム、しまり強い 粘性やや強い、褐色スコリア微細、青灰色バミスごく微量含む ハードローム
- 6 明黄色ローム、しまり強い 粘性やや強い、褐色スコリアごく微量、褐色スコリア微量、青灰色バミスごく微量、鹿沼バミス中量含む
- 7 黄色バミス、しまりやや強い 粘性あり 黑色スコリア、灰白色バミス微量含む 鹿沼バミス少額
- 8 黄褐色ローム、しまり強い 粘性やや強い 小礫微量、黒色スコリア微量含む



第5図 基本層序 A地点



第6図 基本層序 B地点

## 第4章 調査の成果

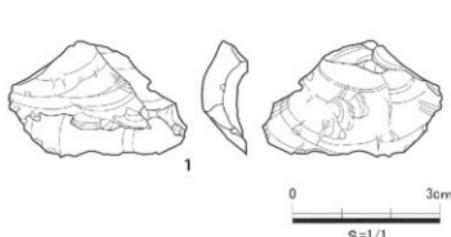
### 第1節 遺構と遺物

#### (1) 旧石器時代

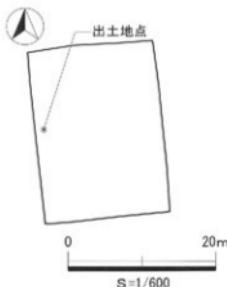
033SK の断割り調査時に、ローム層から石器が1点出土した（第8図）。今回の調査においては1点のみの出土であるが、旧石器時代の遺物として扱う。

##### 二次加工を有する剥片（第7図）

5層（ハードローム層）上位から出土した。石材は灰色の不純物を斑点状に含む漆黒色の黒曜石である。器長24mm、器幅36mm、最大厚7mmを測る。寸詰まりの横長剥片を素材とし、背腹両面からの折断によって打瘤部を除去する二次加工が施される。末端部左縁の背腹両面に微小剥離痕が認められる。背面下端部の剥離面は風化が顕著である。



第7図 旧石器時代 出土遺物



第8図 遺物出土地点図

#### (2) 繩文時代

##### 006SK (第9・10図、表2)

位置 調査区北部、A-2グリッドに位置する。

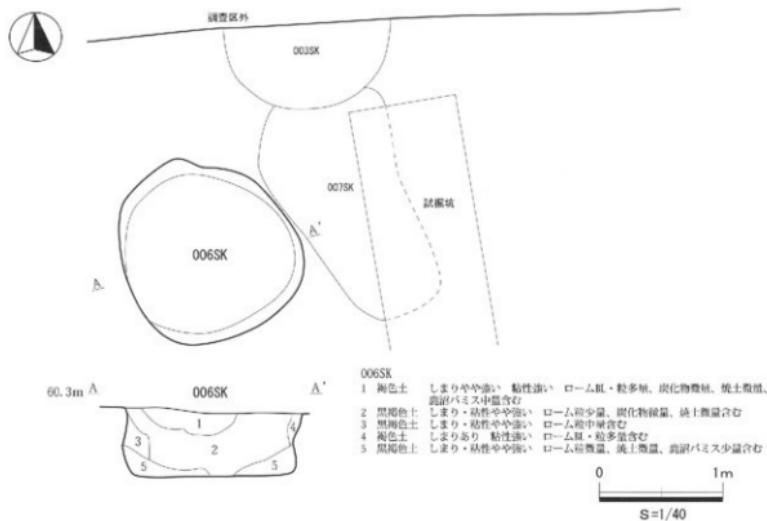
規模と形状 規模は長径1.53m、短径1.39m、深さ0.52mを測る。平面形は円形を呈する。壁は遺構底面から0.15m上までわずかにオーバーハングし、そこから開口部にむかって緩やかに外反しながら立ち上がる。壁面は上下方向の凹凸が著しい。底の深度は鹿沼バミス層（7層）とその直下ハードローム層（8層）との層理面まで到達し、底面はほぼ平坦に整えられている。

覆土 5層に区分した。しまりがやや強く、ローム粒を含む黒褐色の覆土を主体とする。

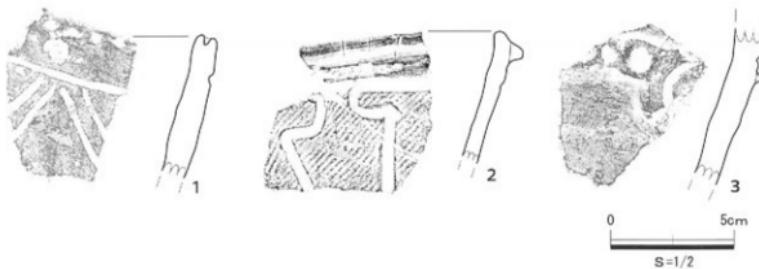
遺物 繩文土器26点が出土した。土器は小破片が多いが、繩文時代後期と考えられる櫛描文が施文されるものや、沈線によって区画される磨消繩文を有するものが認められる。実測遺物は3点である。

1は口唇部に刺突による列点文が施され、外器面には沈線文が描かれる。2は口縁直下に隆帯が巡り、胴部に沈線文が施される。3は横位の隆帯上に列点文が施される。

時期 出土遺物から繩文時代後期前葉と考えられる。



第9図 006SK 平面図・断面図



第10図 006SK 出土遺物

表2 006SK 出土 土器観察表

番号	遺構 No.	出土 地点	断面 剖面	口径 (cm)	幅高 (cm)	底径 (cm)	最大厚 (cm)	部位	文様・断面調整	時期	備考 (接合関係)
1	006SK	一括	深鉢	(58)				口縁部	波状口縁 口唇部に斜窓 口縁に沿う弦縞とその直下に平行な平行沈線	後期	断面黒色
2	006SK	一括	深鉢	(54)				口縁部	口縁に沿う弦縞 軸成な沈線文 地文無飾亂文	弥名寺一 瓶之内式	
3	006SK	一括	深鉢	(61)				腹部	障壁上に斜窓	後期	断面黒色

### 007SK (第 11・12 図、表 3)

**位置** 調査区北部、A-2 グリッドに位置する。

**重複関係** 遺構北辺を 003SK に切られる。

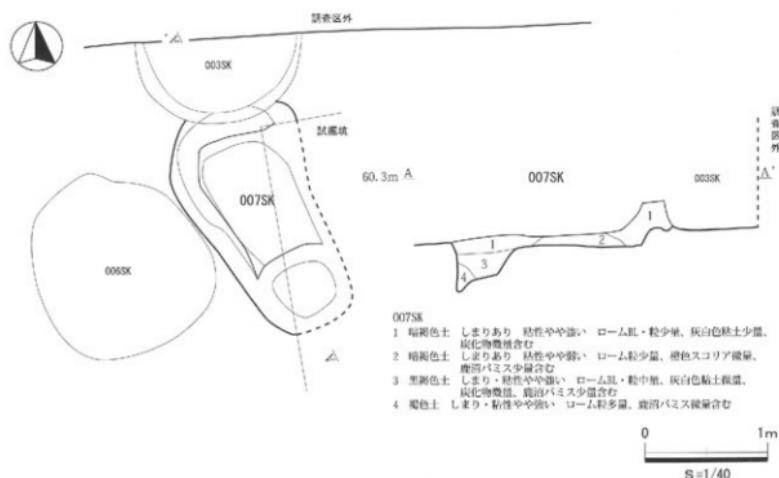
**規模と形状** 規模は長径 1.72m、短径 1.15m、深さ 0.40m を測る。平面形は梢円形を呈する。遺構北、西壁は底面から 0.14m 上で大きく外反し、テラス状部分を形成している。底面は遺構中央部においてほぼ平坦であるが、遺構南部にピット状の落ち込みが認められる。

**覆土** 4 層に区分した。覆土は、ローム土と灰白色粘土がブロック状に含まれる暗褐色土が主体である。粘土は 20 ~ 30cm 大のブロックから径 1mm 程度の粘土粒まで認められ、覆土内に疎らに含まれる。

**遺物** 縄文土器 9 点が出土した。実測遺物は時期の特定が可能な 2 点である。

1 は深鉢の口縁部で、直線的な沈線によって区画される。2 は、沈線による区画内に不定方向の縄文を充填している。1、2 は共に壙之内式に比定される。

**時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。



第 11 図 007SK 平面図・断面図



第 12 図 007SK 出土遺物

表3 007SK 出土 土器観察表

番号	遺構 No.	山土 地点	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	部位	文様・新面調整	時期	備考(接合面等)
1	007SK	一帯	深鉢	(47)				口唇部	直線的な收斂によって区別される縦横網文 地文單旋律文	縦之内2式	
2	007SK	一帯	深鉢	(54)				底部	直線的な沈線による横位1条と逆V字状の区画内に単葉網文を 充填	縦之内2式	器面黑色

016SK (第13・14図、表4・5)

位置 B-1グリッドに位置する。

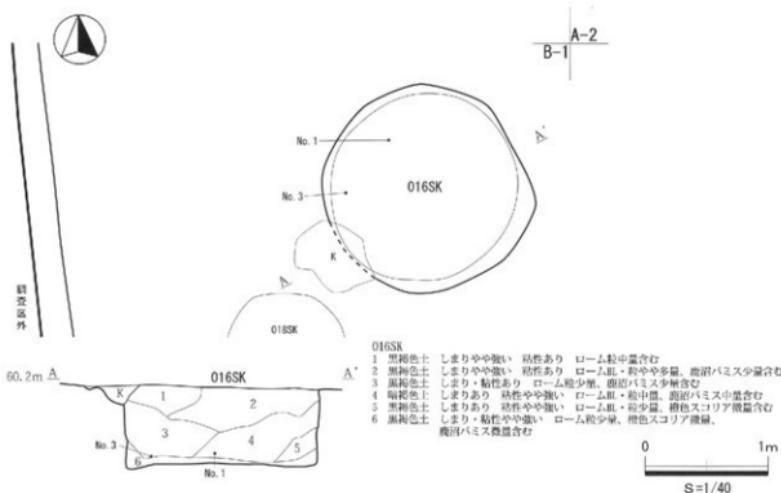
規模と形状 規模は長径1.76m、短径1.71m、深さ0.68mを測る。平面形は円形を呈する。壁は底面から開口部にむかって直立するように立ち上がり、壁面は起伏に富む。東壁の壁面に露出する鹿沼バミス層は上部が変色硬化している。底の深度は鹿沼バミス層(7層)の最下部で、南西部は直下のハードローム層(8層)上面にまで達している。底面は平坦である。

覆土 6層に区分した。ロームブロックと鹿沼バミス粒を含む暗褐色土と黒褐色土で構成される。4・5層は東方向から流入した堆積状況が窺える。

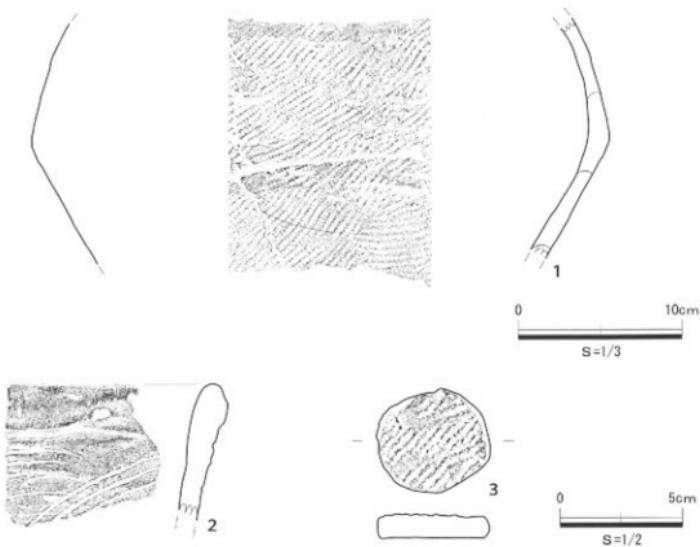
遺物 出土遺物は繩文土器31点、土製品1点である。土器は固化困難な小破片が多いため、実測遺物は3点である。他に、胴部に磨消繩文が施される土器が認められる。

1は、遺構底面付近から出土した深鉢の肩部で、単節縦文を地文とする。2は深鉢の口縁部で、口唇部が肥厚し、弧状の横描文が認められる。3は土製円盤である。ほぼ円形に整えられ、周縁部の断面には摩滅が認められる。

時期 出土遺物には、胴部に磨消繩文が施される土器が多く認められ、また、006SK出土土器同様に、無文地に幅広な沈線を施すものが認められる。これらの出土遺物から、繩文時代中期後半～後期前葉と考えられる。



第13図 016SK 平面図・断面図



第14図 016SK出土遺物

表4 016SK出土 土器観察表

番号	遺構 名、 場所	出土 地點	直徑 (m)	口径 (m)	底径 (m)	最大径 (m)	部位	文様・表面調査	時季	備考(接合関係)
1	016SK	No. 1	深鉢		(141)	<140	底部	単節繩文		
2	016SK	No. 3	深鉢		(56)		口周部 口部厚	弧状の繩痕文	後期	

表5 016SK出土 土製品観察表

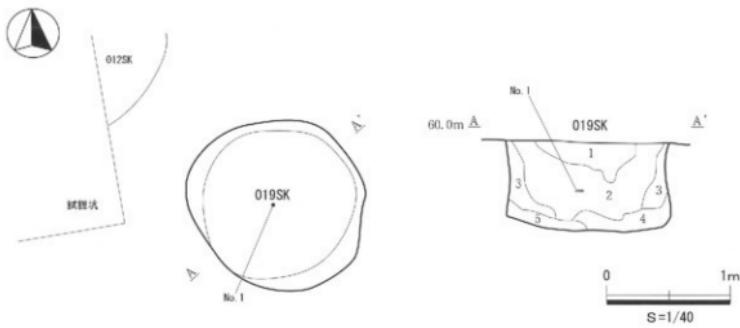
番号	遺構 名、 場所	出土 地點	直徑	最大径 (m)	厚さ (m)	重量 (g)	文様・調査など	備考
3	016SK	一帯	土製円盤	45	10	21.2	単節繩文 断面部に擦滅が認められる	

#### 019SK (第15・16図、表6)

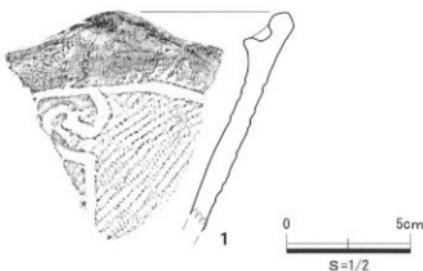
位置 B-3グリッドに位置する。

規模と形状 規模は長径 1.49 m、短径 1.31 m、深さ 0.73 mを測る。平面形は円形を呈する。壁は遺構底面付近がわずかにオーバーハンプする。壁面全面に凹凸が認められる。底の深度はハードローム層(8層)の上部に達する。底面はほぼ平坦に整えられている。

覆土 5層に区分した。ロームブロックを含む黒褐色土を主体として、レンズ状に堆積する。1層を除いて、土質は近似する。



第15図 019SK 平面図・断面図



第16図 019SK 出土遺物

表6 019SK 出土 土器観察表

番号	遺構 No.	出土 地点	器種	口径 (cm)	深さ (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	部位	文様・器面調整		時期	備考(接合関係)
									波状口縁	波頂部に刺突 横位に沈線		
1	019SK	No. I	深鉢	(30)				口縁部	波状口縁	波頂部に刺突 横位に沈線	縫合之内式	器面黑色

**遺物** 出土遺物は繩文土器 8 点、礪 3 点である。出土した土器は小破片のみであるため、実測遺物は口縁部の 1 点である。

1 は、波状口縁を呈する深鉢の口縁部である。波頂部に刺突文が施される。横位に巡る沈線により区画され、地文繩文部分に沈線によって文様が描出される。堀之内 1 式に比定される。

**時期** 出土遺物から、繩文時代後期前葉と考えられる。

029SK (第 17・18 図、表 7)

位置 調査区南東部、D-3 グリッドに位置する。

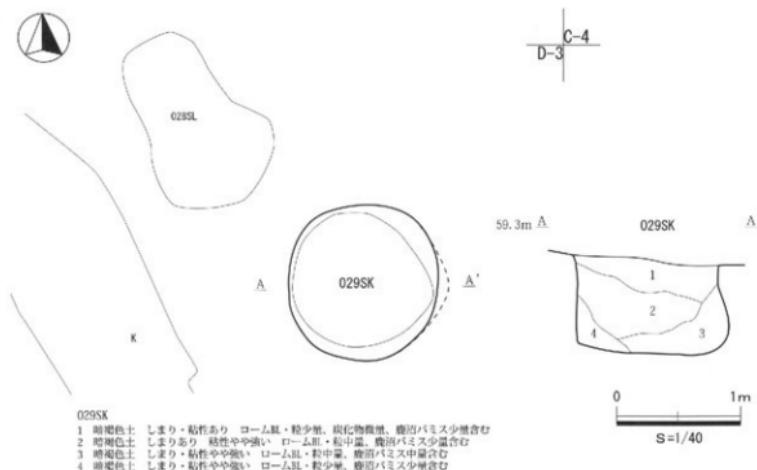
規模と形状 模様は長径 1.28 m、短径 1.20 m、深さ 0.72 m を測る。平面形は円形を呈する。壁は遺構東部において底面から 0.52 m 上までオーバーハングする。壁面は起伏に富む。底はハードローム層 (8 層) の上部に設けられ、底面は平坦である。

覆土 4 層に区分した。1 ~ 4 層はロームブロックと鹿沼バミスを含む暗褐色土であり、土質は近似している。

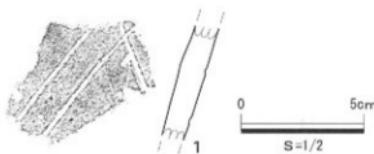
遺物 出土遺物は縄文土器 17 点である。出土した土器は無文の小破片が多い。実測遺物は 1 点である。

1 は粗製の深鉢の側部で、沈線による粗い格子目文が施される。

時期 出土遺物には、櫛描文が施される粗製の深鉢も認められた。これら出土遺物から、縄文時代後期と考えられる。



第 17 図 029SK 平面図・断面図



第 18 図 029SK 出土遺物

表 7 029SK 出土 土器観察表

番号	遺構 名	出土 地點	鉢種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)	部位	文様・表面装飾	時期	参考 (接合箇所)
1	029SK	一柄	深鉢	(47)				側部	沈線による格子目文	後期	縦糸黒色

### (3) 平安時代

#### 028SL (第 19 図)

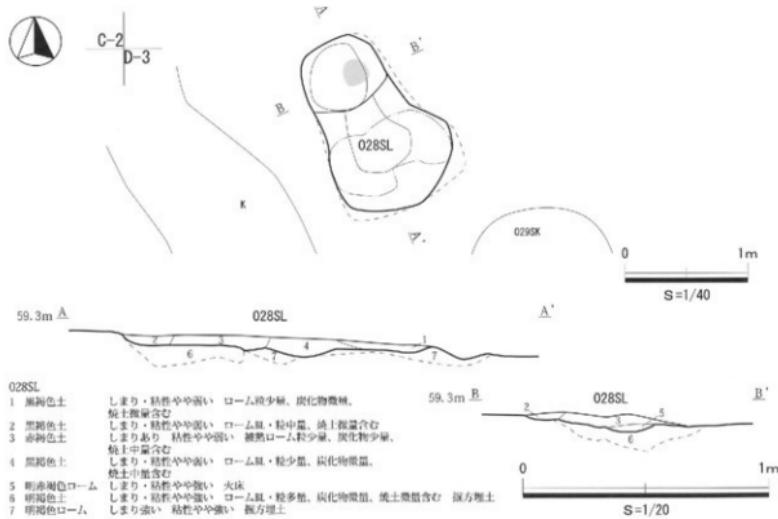
位置 調査区南東部、D-3 グリッドに位置する。

規模と形状 規模は長軸 1.52m、短軸 1.04m、深さ 0.29m を測る。平面形は不整橢円形を呈する。主軸方向は N-34° -W である。火床は遺構北部に位置し、径 0.20m 範囲のローム土が被熱により赤変硬化している。火床以外に遺構内に被熱痕跡は認められない。足場と想定される硬化面が遺構南部に認められる。硬化範囲は東西を長軸とし、ほぼ平坦である。ピットなどの付帯施設は認められなかった。

覆土 5 層に区分した。ローム土、焼土および炭化物を含む黒褐色土を主体とする。5 層は火床である。6、7 層は掘方の埋土にあたり、ローム土を主体とする。

遺物 出土遺物は繩文土器 2 点、土師器 12 点、須恵器 1 点、被熱碟 1 点である。遺物は固化困難な小破片のみである。

時期 出土遺物は小破片ではあるが、内面黒色処理された土師器坏や、焼成不良の須恵器などが認められるため、9 世紀代と考えられる。



第 19 図 028SL 平面図・断面図

#### 032SI (第 20・21 図、表 8)

位置 調査区中央東部、C-3 グリッドに位置する。

重複関係 026SK を切る。削平により遺構東半部は失われ、カマド、西側壁溝、床が遺存する。

規模 残存部で長軸 4.74m、短軸 3.20m を測る。主軸方向は N-3° -W である。

床 ほぼ平坦である。硬化面は複数箇所に認められ、顕著な硬化は遺構南部中央である。

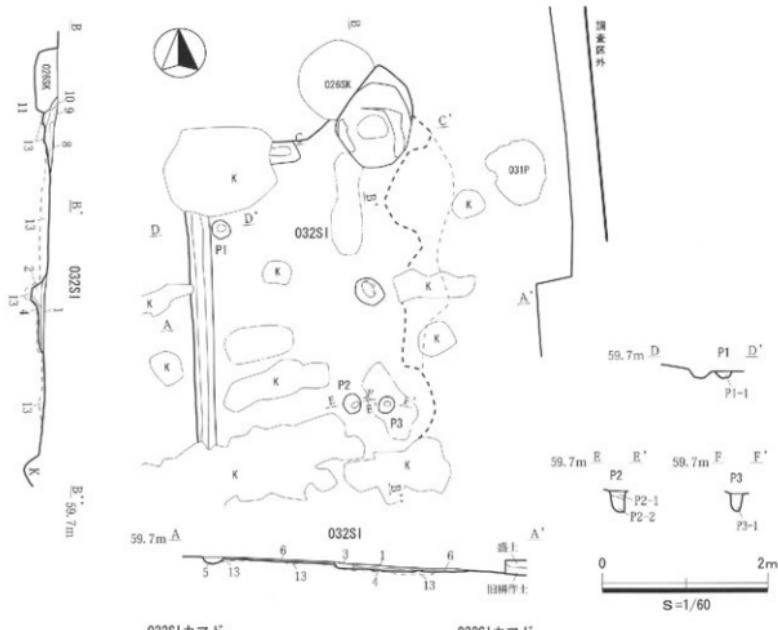
ピット P1 は床面、P2 と P3 は掘方より検出した。P2, P3 は位置関係から、住居入口付近の副柱穴と考えられる。

カマド 住居北側に付設され、規模は焚口から煙道部まで 1.21m、袖部幅 0.72m である。火床は認められなかつたが、煙道部下面に相当する部位（10 層）に焼土が顕著に認められる。

覆土 13 層に区分した。住居中央において、掘り込み部分と焼上や被熱ローム粒を含む上層が認められ、炉が存在した可能性を示している。13 層は掘方の埋土である。

遺物 出土遺物は繩文土器 20 点、土器 184 点、須恵器 5 点である。実測遺物は 7 点である。

1 は小型壺の口縁部である。胸部の外面に縱位のヘラナデ調整が認められる。2 は底部に「×」のヘラによる線刻が認められる。3 は壺の口縁部で、器面は横位のナデにより整えられている。4 は高台壺の底部で、内面は炭素吸着による黒色処理が施される。5 は須恵器壺の口縁部である。器面は還元焰焼成が不十分のため、橙色を



#### 032SI

- 1 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性あり ローム粒中混、炭化物微量、土少含む
- 2 黄褐色土 しまりあり、粘性やや強、被熱ローム・粒少量、炭化物微量、燒土少含む

3 喀斯特土 しまり、粘性あり ローム少含む

4 喀斯特土 しまりあり、粘性やや強、被熱ローム・粒やや多量、燒土少含む

5 喀斯特土 しまりあり、粘性やや強、ローム・粒やや多量含む、粘土相當

6 喀斯特土 しまり、粘性あり ローム・粒やや多量含む、粘土相當

7 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性あり ローム粒微量、炭化物微量、土少含む

8 黑褐色土 しまりあり、粘性やや弱い、ローム粒微量、炭化物微量、

炭化物微量、燒土少含む

9 黑褐色土 しまり、粘性あり ローム・粒、粉微量、黑褐色粘土少量、炭化物少量、

燒土少含む

10 黑褐色燒土 しまりやや強、粘性あり 燃土下部部分

11 黑褐色土 しまり、粘性やや強、ローム・粒中量、炭化物粘土微量、燒土少含む

12 黑褐色土 しまりやや強、ローム・粒微量、炭化物粘土微量、燒土少含む

13 喀斯特土 ソヂに相当 しまりやや弱い、粘性強、ローム・粒、粒多量含む

#### P1

- 1 黒褐色土 しまりあり、粘性やや弱い ローム・粒、粒少量、燒土無量含む

#### P2

- 1 黑褐色土 しまりあり、粘性やや強、ローム・粒、粒多量含む
- 2 黑褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱、ローム・粒、粒少量、燒土無量含む

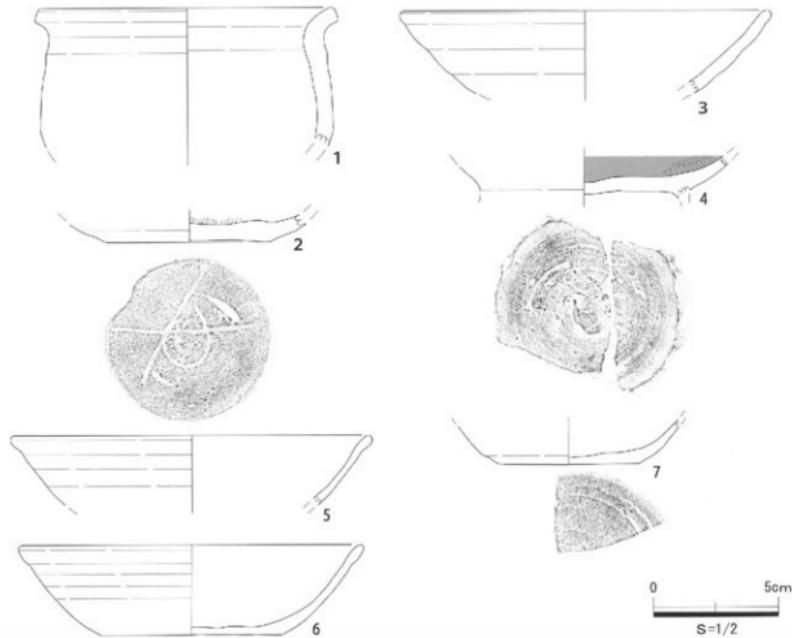
#### P3

- 1 黑褐色土 しまりあり、粘性やや弱い ローム・粒、粒多量含む

第 20 図 032SI 平面図・断面図

呈する。6は須恵器坏で底部は回転ヘラ切りののち、未調整である。7は須恵器坏の底部で、体部の下端はヘラケズリ調整が施される。

時期 出土遺物の様相から9世紀第3～4四半期と考えられる。



第21図 0325I 出土遺物

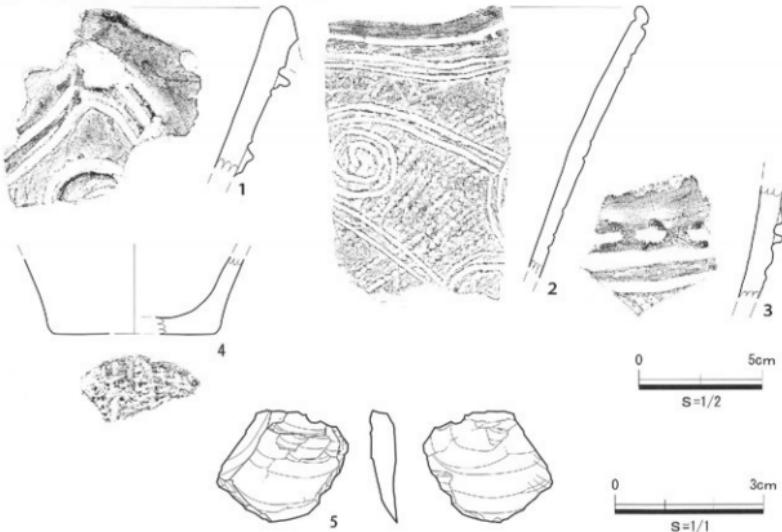
表8 0325I 出土 土器観察表

番号	遺構 No.	出土 地點	器種	形態	口径 (cm)	厚高 (mm)	底径 (mm)	最大深 (mm)	部位	手法・文様の特徴	出土 状況	色調	焼成	時期	備考
1	0325I	一括	小型壺	土師壺	C163 (52)				口縁部	口邊彌ナツ 外面部のヘラケズリのヘラナツ (ND) 内面ハラタツ (ND)	当型母 石	赤褐色	普通		
2	0325I	一括	小型壺	土師壺		66			底部	外面部下部のヘラケズリ 内面ミガキ、底面部ヘラケズリ ヘラナツ (x)	黒褐色 石	褐色	普通		
3	0325I	カマド	壺	土師壺	C16 (34)				口縁部	外面部のヘラナツ 外面部スカルプ	黒褐色 石	褐色	普通		
4	0325I	末森 高台 付壺	壺	土師壺		<40			底部	内面部黒糊地 内面部黒糊地、上部を白 底面部ヘラ切りのもの	白黒母 石	褐色	普通		
5	0325I	カマド	壺	須恵器	C14D (29)				口縁部	外沿・内面母ナツ	白黒母	褐色	不良	9世紀後半～ 4世紀前半	
6	0325I	カマド	壺	須恵器	C13B (37) C7D (14D)				口縁部 底部	内面部下部ヘラケズリ (手持ち) 内面部黒糊地 底面部ヘラ切り	白黒母	褐色	不良	9世紀後半～ 4世紀前半	
7	0325I	カマド	壺	須恵器		(56)			底部	外面部下部ヘラケズリ (手持ち) 外沿・内面母ナツ 底面部ヘラナツ	白黒母	白色	普通	9世紀後半～ 4世紀前半	

#### (4) 非抽出遺構・遺構外出土遺物

非抽出遺構および遺構外から出土した縄文時代の遺物5点を掲載する(第22図、表9・10)。

- 1は、013SKから出土した深鉢の口縁部である。波状口縁を呈し、斜行する隆帯と沈線によって施文される。
- 2は、深鉢の口縁部で、口唇部直下の内外器面に横位の沈線が巡り、脇部には渦巻文が施される。堀之内1式に比定される。
- 3は014SKから出土した深鉢である。隆帯上に刺突文が認められ、その隆帯に沿って平行沈線が巡る。
- 4は深鉢の底部で、網代窓が認められる。
- 5は、018SKから出土したチャート製の微小剥離を有する剥片である。剥片の左右両縁辺に微小剥離痕が認められる。



第22図 非抽出遺構・遺構外出土遺物

表9 非抽出遺構・遺構外出土 土器観察表

番号	遺構 M.R. 地點	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	部位	文様・断面調査	時期	備考(複合簡略)
1	013SK 一括	深鉢	(72)				口縁部	波状口縁 隆帯上と隆帶縁に沿う沈線		
2	014SK 一括	深鉢	(116)				口縁部	波状口縁 口唇部直下の内外器面に沈線 平行沈線による渦巻文 純文單底窓	堀之内1式	
3	014SK 一括	深鉢	(46)				剥片	横位隆帯上に刺突文 隆帯に沿う平行沈線 网代窓		
4	018SK 表探	深鉢	(84)				底部	網代窓		

表10 非抽出遺構・遺構外出土 石器観察表

番号	遺構 M.R.	出土 地點	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	特徴	備考
5	018SK	一括	微小剥離を有する剥片	28	27	6	3.7	チャート	左・右縁辺に微小剥離	

表11 峰崎遺跡 棲出遺構一覧表

遺構No.	掲載	グリッド	平面形	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(n)	土な遺物	時期	切り合い	備考
001SK		A-1	円形	半円形	0.82	(0.71)	0.33	縄文土器 土師器		なし	
002SK		A-1	円形	半円形	0.96	0.89	0.07	縄文土器 土師器		なし	
003SK		A-2	円形	箱形	1.34	(0.69)	0.34	縄文土器	縄文時代	007SK<	
004P		A-2	不明	半円形	0.40	(0.15)	0.15	縄文土器 土師器		なし	
005		-	-	-	-	-	-	-	-	-	擾乱
006SK	◎	A-2	円形	箱形	1.53	1.39	0.52	縄文土器	縄文後期前段	なし	
007SK	◎	A-2	楕円形	不整形	1.72	1.15	0.40	縄文土器	縄文後期前段	<003SK	土師器が混入
008SK		A-2	円形	半円形	1.34	1.34	0.22	縄文土器	縄文時代	なし	
009SK		A-3	円形	不整形	1.30	1.30	0.17	縄文土器 土師器		なし	
010		-	-	-	-	-	-	-	-	-	擾乱
011SK		A-3	円形	半円形	1.43	1.39	0.15	縄文土器 土師器		なし	
012SK		A-2	不明	半円形	1.62	0.60	0.18	縄文土器	縄文時代	なし	
013SK		A-2	円形	箱形	1.08	0.89	0.25	縄文土器 土師器		<014SK	
014SK		A-2	円形	箱形	1.69	1.38	0.27	縄文土器 土師器		013SK・015SK<	
015SK		B-2	円形	箱形	1.26	0.91	0.25	縄文土器		<014SK	
016SK	◎	B-1	円形	箱形	1.76	1.71	0.68	縄文土器	縄文中期～後期	なし	
017		-	-	-	-	-	-	-	-	-	擾乱
018SK		B-1	円形	箱形	1.07	0.91	0.35	縄文土器	縄文時代	なし	
019SK	◎	B-3	円形	箱形	1.49	1.31	0.73	縄文土器	縄文後期前段	なし	
020SK		B-2	円形	半円形	1.10	1.06	0.25	縄文土器 土師器		なし	
021SK		B-2	円形	箱形	1.15	1.04	0.30	縄文土器	縄文時代	なし	
022		-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
023SK		C-2	円形	半円形	1.14	0.98	0.11	縄文土器 土師器		なし	
024SK		C-2	円形	半円形	1.00	0.98	0.06	縄文土器 土師器		なし	
025SK		C-1	円形	半円形	1.00	0.89	0.23	縄文土器	縄文時代	なし	
026SK		B-3	円形	半円形	0.99	0.93	0.28	縄文土器 土師器		<032S1	
027SK		C-2	円形	半円形	1.35	1.16	0.30	縄文土器 土師器		なし	
028SL	◎	D-3	不規則円形	不整形	1.52	1.04	0.29	縄文土器 土師器	平安時代(9世紀)	なし	
029SK	◎	D-3	円形	袋形	1.28	1.20	0.72	縄文土器	縄文後期	なし	十鉢器が混入
030SK		D-2	円形	不整形	0.89	0.86	0.45	縄文土器	縄文時代	なし	
031P		B-4	不整形	半円形	0.78	0.62	0.13	縄文土器	縄文時代	なし	
032S1	◎	C-3	方形	不整形	4.74	3.20	0.16	縄文土器 土師器	平安時代(10世紀) 第3～5年頃	026SK<	
033SK		C-1	円形	袋形	0.93	(0.34)	0.90	なし		なし	
034SK		C-2	円形	半円形	1.36	1.32	0.16	なし		なし	
035SK		D-1	円形	箱形	1.20	(0.73)	0.30	なし		なし	
036		-	-	-	-	-	-	-	-	-	擾乱
037		-	-	-	-	-	-	-	-	-	擾乱
038P		D-2	円形	U字状	0.47	0.38	0.45	なし		030SK内ビット	

※一部、調査区外にかかる遺構の計測値は( )で示した。

## 第2節　まとめ

本節では、今回の調査成果について概説しながら、平成2、3年の調査（以下、前回調査）成果を一部援用し、まとめとする。

### 1. 旧石器時代について

近年、笠間市内においては、小組遺跡での出土例をはじめとして徐々に旧石器時代の資料が増加しており、様相が把握されつつある。その成果の中で、市域周辺の石器石材環境を日向けると、在地石材であるチャートの入手が比較的容易であることから、旧石器時代のみならず、縄文時代においても石器の石材としてチャートが積極的に利用されるという特徴があげられる。反面、遠隔地石材である黒曜石は出土量という点では多いとは言えない。今後、資料数が増加するにしたがって、より詳細な当時の石材利用状況が明らかになっていくことと思われる。木遺跡で出土した当該期の石器は黒曜石製の剥片1点のみであり、全面的な調査による成果ではないため、その具体的な分析は現時点では困難であるが、寺崎台地上に旧石器時代の遺跡が存在する可能性が示されたと言えよう。今後の資料の蓄積に期待したい。

### 2. 縄文時代について

前回調査においては縄文時代の住居1軒を検出しているが、本調査区では土坑のみの検出であった。土坑の分布状況を見ると、標高59.75m付近を南限として調査区北部に集中していることが窺える。また、土坑内から出土した縄文土器は、壇之内式が主体であり、前回調査の住居から出土した土器と同様である。本調査区内では、開口部の平面形が正円形を呈する上坑を25基検出したが、抽出した上坑以外において時期的な判断が困難であった。このため、本節において土坑の遺物、覆土、形態について検討し、土坑の位置づけを行ないたい。

#### ①遺物

表11にあるように、多くの上坑の一括遺物に上飾器が含まれる。抽出した土坑のうち、007SKと029SKにおいても土師器の小破片が出土している。ここで前回調査の成果を確認すると、本調査区の土坑と同様に、縄文上器と土師器・須恵器が共に出土した土坑9基が検出されており、奈良・平安時代の土坑として位置づけられている。しかしながら、本調査区の土坑と異なる点として、土坑内から出土した遺物の多くが土師器・須恵器で縄文土器が少ない点、ほぼ完形の上飾器・須恵器の個体が山上している点、さらに、意図的な廃棄を類推させる出土状況である点の3点が挙げられる。

#### ②覆土

抽出した土坑の覆土について見てみると、ローム粒、ロームブロックを含み、暗褐色もしくは黒褐色を呈し、しまりがやや強い覆土が主体を占める傾向が認められる。この傾向は非抽出遺構の土坑においても認められ、覆土から抽出遺構との時期的な差異を看取することはできなかった。また、上坑内の覆土には、混入を類推させる明確な擾乱や、堆積状況は確認できなかった。

#### ③形態

上坑の形態については、抽出した土坑とそれ以外との間に差異が認められる。抽出した土坑のうち007SKを除くと、開口部が1.5~1.7m程度の正円形で、断面形状はほぼ箱形、壁は底面付近でわずかながらオーバーハングするという特徴を有する。さらに、上坑の底が鹿沼バミス層下部付近に設けられる点も共通点として挙げられる。これに対して、非抽出遺構の土坑の多くは、開口部の平面形がほぼ正円形を呈することは同様であるものの、5層ハードロームまでの深度であり、壁のオーバーハングも認められない。

上記の検討から、縄文土器と土師器が共に出土した上坑は、形態的特徴と遺物の出土状況を考慮して、縄文時代の上坑として扱わないととした。ただし、土坑からの出土遺物の多くが縄文土器であるため、本来は縄文時代の遺構であり、少量の上部器は、後世の土地利用に伴って混入した可能性を指摘するに留めたい。

### 3. 宗良・平安時代について

今回検出した 032SI は、床面よりも上部が削平されており、擾乱により遺構南端も失われていたため、全容の確認は困難であった。出土遺物は土師器の壺、小型甕、須恵器の壺などが認められたが、器種組成を把握するのに充分な資料が得られず、器形全体が窺える資料もわずかであった。時期については、供膳具の様相や、器面調整の手法から、9世紀第3～4四半期が想定されるが、還元焰焼成が不十分な須恵器が含まれることから、須恵器供給の終末期である9世紀第4四半期に限定できる可能性は高い。

前回調査においては、住居から8世紀～10世紀代の遺物が出土しており、盛期が9世紀第3～4四半期と捉えられている。本調査区の 032SI もこの盛期に属する住居であったと考えられる。今後は、寺崎台地上に展開した集落の様相を解明していくことが課題となろう。

以上、各時代ごとに前回調査成果と合わせて概観したが、今回の調査によって、前回調査の補完的な成果が得られた。本調査区は、削平によって遺構の大部分が失われていた上、調査区内を東西軸の耕作痕が多数横断しており、後世の土地利用、改変の影響が著しい。しかしながら、今回の調査によって、当該期に寺崎台地上で積極的な土地利用が行なわれていた可能性は提示できたと言えよう。

### 参考文献

- 福井義弘 2006『新善光寺跡・穴戸城跡—上裏地方道人渋友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書一』茨城県教育財團文化財調査報告  
第 256 集 財团法人茨城県教育財團  
鹿島直樹 2004『石井遺跡群 一般国道 355 号バイパス新設工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財團文化財調査報告第 219 集  
財团法人茨城県教育財團  
小林達雄 1988『縄文土器大辭典4 後期 晩期 純縄文』小学館  
佐々木義則 2007『茨城県における奈良・平安時代土器研究の現状』『考古学の深層—瓦吹先生還暦記念論文集—』  
瓦吹先生還暦記念論文集刊行会  
千種重樹 1992『茨城県笠間市寺崎台地遺跡 太平洋観光開発㈱の事務所兼共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
寺崎台地遺跡発掘調査会  
西野元ほか 1996『笠間市西田遺跡の研究 純文時代における石獣の製作と流通に関する研究—』筑波大学歴史・人類学系  
茨城県立歴史館史料部 2006『茨城県立歴史資料叢書9 茨城の縄文土器』茨城県立歴史館  
笠間市史編さん委員会 1993『笠間市史 上巻』笠間市  
ティケイトレード株式会社 2010『橋爪遺跡一道路改良工事に伴う遺跡の発掘調査報告書』笠間市教育委員会

## 報告書抄録

ふりがな みねさきいせき								
書名 峯崎遺跡								
副書名 福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名 望月大輔								
編集機関	ティケイトレード株式会社							
住所地	〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-1-16 ティケイトレード新宿ビル8F TEL 03-5155-0391							
発行年月日	2011年5月31日							
所取遺跡名 みねさきいせき 峯崎遺跡	所在地 いばらきけんかさまし 茨城県笠間市 てらすまち あざみ ひねさき 158番 寺崎字 萩原 158番外	コード		北緯 36°23'42"	東經 140°15'22"	調査期間 2011.02.01 ～ 2011.02.25	調査面積 329m <sup>2</sup>	調査原因 福祉施設建設 に伴う遺跡の 発掘調査
		市町村 08321	遺跡番号 016					
峯崎遺跡	旧石器時代			剥片		縄文時代後期前葉の土坑を 検出した。関東ローム層より 旧石器時代の石器が1点出土 した。		
	縄文時代 (包蔵地)	上坑 ビット	12基	縄文土器・石器				
	平安時代	住居 屋外炉	1軒	土師器・須恵器				
	時期不明		16基(総計31基)					
要約	縄文時代の上坑、平安時代の住居、屋外炉を検出した。縄文時代の土坑からは塙之内式を中心 に、後期前葉の土器が出土した。また、平安時代の住居からは9世紀第3～4四半期の土師器と須 恵器が出土した。後世の削平が調査区内全域にわたってローム層まで及び、遺構の上部は失われ ている。							



調査区全景（東から）



基本層序 A（西から）

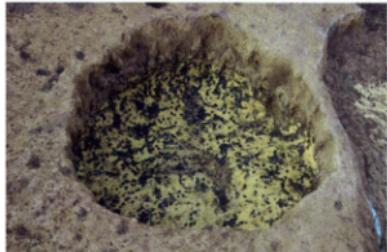


基本層序 B 3～8層（東から）



旧石器時代 石器出土状況（北から）

写真図版2



006SK 完掘（南から）



007SK 完掘（東から）



016SK 遺物出土状況（南から）



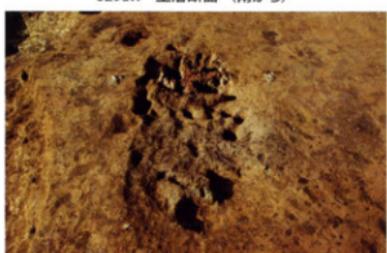
016SK 完掘（南から）



029SK 土層断面（南から）



029SK 完掘（南から）



028SL 完掘（南から）



032SI 完掘（南から）



旧石器時代 石器



0065K-2



0075K-2



0165K-1



0165K-2



0195K-1



0295K-1



非抽出遺構・遺構外出土-1



非抽出遺構・遺構外出土-2



非抽出遺構・遺構外出土-5



0325I-1



0325I-2



0325I-4



0325I-6

茨城県笠間市

## 峯崎遺跡

—福祉施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011年5月31日

編集　　トイケイトレード株式会社  
東京都新宿区歌舞伎町1-1-16  
トイケイトレード新宿ビル 8F  
TEL 03-5155-0391

発行　　社会福祉法人木犀会  
茨城県笠間市難波6266-185  
TEL 0296-78-1133

印刷　　能登印刷株式会社  
石川県金沢市武藏町7-10  
TEL 076-233-2550

